

センサ

1977年 12月号 第3号

東京温度検出端工業会 会報

巻頭言

社長及び関係社員必読のお願い

会長 林 和 夫
(林電工株式会社取締役社長)

今年もあますところわずかとなりました。会員の皆様にはお元気で活躍と存じます。

さて本会も創立後早くも四年の年月を経ましたが、何とか運営出来ているのは、会員の御協力、理事会の担当の方々、事務局を引き受けて下さる西村工業の社長、八木さん、武藤さんなどの皆様のおかげと深く感謝致しております。筆者は常々、温度検出端は、温度の物指しとして重要、省力化、合理化傾向のすすむにつれて、需要が増える準消耗品である等の理由で、技術的にも経営観点からも質のよい仕事だと考えています。しかし本当に収益性の高いよい仕事になっているかどうか、また業界として結束して外にあたっているかどうかという点になるとちょっと考えてしまいます。

月商合計10億円以上のかんりの業界なのに、何といっても計測器業界の側面を歩いている従属的な仕事であるため個々にも弱く、結束も弱い業界と申せましょう。そのためにこそこの工業会の結成が要望されたのだと思います。結成以来勉強会、共通規格や標準価格の作製、計測器業界への発言、見学会、親睦、そして最大の目標であるところの収益をふやすための話し合い等をやって来たわけです。しかし会が業績を上げているかどうか、会員が有効に会を利用しているかどうか、また会員各社が事務局まかせにせず会を自分のこととして盛り立てているかどうか、と反省してみるとどうもまだまだと言う気がします。

例えば電気計測器工業会から人を招いて「今後数年の工業計測器の需要の動向」など最も会員に関心のある管の勉強会を開いたのに、参加者はたったの7社であったという事実、また事務局から催促しないと参、不参加さえ通知して来ないという現状、何故なのか、そしてどうすればもっと強い、よい会になるのでしょうか。筆者は公私ともに色々な会に入れて頂き、そこで見聞しているのですが、会員には次の様なタイプの方が存在するのが常であります。

- (1) 貧乏くじにあたり、物好きだったりして、会の中心に入り、全会員のために働く会員（結局はめぐりめぐって、自分が恩恵に浴するのだが）
- (2) 上のタイプほど力は割けないが、会の方針には気持よく賛同し、義務を果す会員
- (3) 入会して置きながら無関心な会員
- (4) 入会していても、得るところが少いと不平を言ったり、まずいのは会のせいにするタイプ

このタイプの会員は批判はするが、たいいていの場合中心に入って背負ったり、ひと様の世話はしない人が多い。

東京温度検出端工業会には幸いにして(4)のタイプはおられません、しかし前述の様にどうも盛り上に欠ける様です。何故なのか考えると、世の中がせせこましくて、各社のこの会の関係社員の方が、忙しすぎることもありましようが、幹部特に社長がこの会の運営方針に無関心だったり、行っている事業を知らない場合が多い様に思われますが如何でしょう。

先ず関係社員の方が、関心を強くするとともに、この会の事業について、必ず社長に御報告下さることから改善したいものです。そして御意見、批判、希望等をどどん事務局なり理事会に申し出て頂き、それを会の運営方針に反映させて下さい。また各社の社長につとめて会の集りに御出席下さる様お願いします。

私も何期か終れば会長を退きますし、西村工業さんにもいつまで犠牲を強いて、事務局をお願い出来るかわかりません。発展的変革を望んで表題の様なお願いとなったわけです。御判読と御賢察を願います。

声

◎ホスキンス訪問記

株式会社 日本熱電機製作所

代表取締役 童子俊一

去る5月、訪米の機会を得て、2日間に渡りデトロイト市のホスキンス製造会社を訪問してまいりました。市内中心街にある管理本部に於て、身長190cmを優に越える、R. N. アンダーソン社長を始め、R. I. クラッチ副社長、営業主任のF. H. ミラー氏らとお会い致しました。

顧りみまずと同社とは取引開始以来、文書での面識のみで、私が若いことを少々驚かれた様子でしたが、日本からのしかも同社訪問のみを目的としたことで大いに歓迎していただきました。席上、価格、納期、製品品質等問題点を具体的数字を交えて質疑致しました。ホスキンス社に於ても日本市場には大きな期待を持っており、人件費等諸問題はあるにせよ価格面での再考も誠意のある解答を戴くことが出来ました。

又再三にわたって御迷惑をお掛けしていた納期遅延に関してはデトロイト市郊外のハンブルグに新工場を建設中であり（当時建物は完成しておりましたが、機械設備等は一部施設での操業であり）本年度中に全施設の設置を終え——溶解炉、冷間、熱間圧延機等百万ドルの設備投資——完全操業に入る予定です。

又、同市近郊のマイオ（太線加工工場）シャーロイックス（細線加工工場）にもそれぞれ工場を建設中で、これ等工場の新設が完了次第、やや施設に老朽化の目立つデトロイト工場は閉鎖するとのことです。

これらの計画により製品納期は発注後約4ヶ月と短縮される見込みで現在の信頼をさらに上回る品質管理をも合わせてユーザーの皆様にも今後さらに大きな期待をお持ちいただけると確信致しました。

今回訪米の際にも新しい情報を皆様にお届け出来れば幸いです。

会社紹介

助川電気工業株式会社

昭和24年2月、現社長によって創立、電熱、温度計測、原子力の三部門を柱として、優れた技術と厳しい品質管理から生まれる製品により益々発展されている企業であるが、昭和30年1月第一号製品《シーズヒーター》より熱機器メーカーとして第一歩を踏み出され、続いて昭和36年5月他社に先がけて《ソース型熱電対》の国産化にはじめて成功、欧米メーカーの独占市場であったわが国産業界に（高品質、高信頼度、安価）な国産ソース型熱電対のトップメーカーとしての地位を固められ、更に昭和38年には、細線型ソースヒーターの決定版《マイクロヒーター》の開発、化学プラント、原子力プラント、他あらゆるプラント機器類の予熱ヒーターとして産業界から高く評価される。

原子力時代の到来は、熱関連製品に新しい展望を開き、原子力機器の開発にも積極的に取り組み、ユニークな製品を開発され、特に“夢の原子炉”といわれる「高速増殖炉」の関連製品は最も力を入れられ、独自の製品は原子力産業界より高評価を受けている。最近では製造部門を対象に、社内グループ制による請負生産を導入され、生産性向上、コスト低減にも努力され、日夜躍進を続けられる企業であり、その動向は十分注目し期待される企業である。

代表取締役社長 百目鬼用吉

本社工場／茨城県日立市滑川町2560番地 〒317

TEL 0294 (21) 5181

高萩工場／茨城県高萩市上手網（手網工業用地） 〒318

TEL 02932 (3) 6411

東京支店／東京都千代田区内神田3の6の2 トリサクビル

TEL 03 (254) 7730

新 栄 熱 計 装 株 式 会 社

会社を設立されたのは、昭和22年であり、業界のなかでも草分け的な存在ではないでしょうか。工業計器、温度検出端全般、操作盤、計装工事及炉内温度分布測定等を主な営業品目とし、製造販売を行っております。

杉本社長は創業以来30年を超える経験のうえに、度々海外の視察を続けておられ、その知識は豊富で、我々としても教えられることの多い方ではないかと思えます。

また、昭和44年には、電球自動製造機の自動の制御装置で、第一回「市村賞」（新技術開発財団に依る）を受けるなど、ユニークな技術をもっておられ、今後とも大いに活躍を続けられることと思えます。

代表取締役 杉 本 嘉 正

本社工場 東京都目黒区目黒本町4丁目20番3号

電話 03(711)7346~8

相 互 電 機 株 式 会 社

創立は昭和26年であり、既に26年を過ぎております。創立以来㈱北辰電機製作所の協力工場として、工業計器の修理業務及び航空計器の組立、検出端（測温抵抗体）の製造等を主力業務として参りましたが、その後デジタル機器、電子式制御機、精密電気部品等の製造、組立を追加し現在に至っております。我々工業会の中にもその製品であります抵抗体素子でいろいろ関係の深い会員の方もいるのではないのでしょうか。技術的、人間的に㈱北辰電機製作所との間に交流があり、技術的に高い評価を受けており、また社風も技術を大切に地道な営業活動を目指していらっしゃるよう見うけられます。現在従業員は24名。

代表取締役 荻 野 武 夫

〒146 東京都大田区矢口2丁目4番6号

電話 (03) 758 - 2651 (代)

理 事 会

6月2日

○定例理事会を今後偶数月の第一木曜、3時とする。

○各担当理事を決定する。

専門部会担当 大昌電機㈱、山里産業㈱、㈱徳力本店

渉外担当 助川電気工業㈱、西村工業㈱

技術担当 ㈱岡崎製作所、中外商工㈱、古河特殊金属㈱

広報担当 石福金属興業㈱、林電工㈱

6月22日

○各専門部会ごとに会議を行い、49年に決めた標準価格の見直しを行うことも決定。

○各担当理事から具体的な今後の活動日程の説明承認。

8月3日

○日本軽金属㈱（蒲原）の工場見学会を行うことを決定

○電気計測器工業会発行の「工業計器の今後の見通し」について説明会を行う。

○東京都工業技術センターとの間で技術懇談会を10月5日に行うことを決定

10月4日

○各担当理事より活動の報告と今後の予定の説明

会の動き

●懇親会

○1月28日 ホテル・パンフィックにおいて新年懇親会 参加38名

●見学会

○3月15日 ㈱千野製作所藤岡事業所 参加19名

○11月10日 日本軽金属㈱見学会 参加11名

●技術講習会

○2月25日 「温度検出端の諸問題」 ㈱北辰電機製作所 小川実吉氏 参加44名

○9月7日 日本電気計測器工業会の説明会 参加18名

○10月5日 東京都工業技術センターと共同で技術懇談会を開く 参加22社、23名

●定時総会

5月27日、東海大学校友会館において第4回定時総会を開催した。

○51年度事業報告及収支決算報告及52年度事業計画、収支予算を原案通り可決

○全会員の投票により理事を選出し、理事の互選により、新役員を下記の通り決定

会 長 林電工㈱

副会長 西村工業㈱

理 事 石福金属興業㈱、㈱岡崎製作所、助川電気工業㈱、大昌電機㈱、古河特殊金属㈱、山里産業㈱

監 事 中外商工㈱、㈱徳力本店

編集後記

今回から2年間編集者がかわります。これだけのものを出すのにもかなりの時間と苦労が必要でした。前任者の御苦勞ぶりが察せられます。我々も何とか頑張ってゆきたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。

石 福 金 属 興 業 ㈱
林 電 工 ㈱

昭和52年12月発行 No. 3

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11(西村ビル)

電 話 4 9 4 - 0 6 7 1